

2. 新生物 (C509 乳がん生存者)

文献

Carlson LE, et al. Randomized Controlled Trial of Mindfulness-Based Cancer Recovery Versus Supportive Expressive Group Therapy for Distressed Survivors of Breast Cancer (MINDSET) J Clin Oncol, 2013; 1; 31(25): 3119-26. Pubmed ID:23918953

1. 目的

心理的苦痛を抱えた乳がん生存者へのマインドフルネスベースの癌の回復 (MBCR) と集団表現療法 Expressive サポートグループ (SET) の有効性を比較する

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

バンクーバーとカルガリー

4. 参加者

ステージI、II、またはIIIの乳癌と診断された18歳以上の女性271名

5. 介入

Arm1:(介入群)MBCR グループ 113名(Massachusetts Medical center で開発された MBCR)8 週間/合計 18 時間

Arm2:(介入群)SET グループ 104名(Stanford University で開発された集団表現療法)12 週間/合計 18 時間

Arm3:(コントロール群)教育グループ 54名(The university of Miami Center for Psycho-Oncology Research に基づくストレスマネジメントセミナー)1 日/6 時間

6. 主なアウトカム評価指数

1.POMS (気分) 2.唾液コルチゾール値 3.SOSI39 (ストレス) 4.FACT-B40 (QoL)
5.MOS-SSS (社会的支援) を介入前後の2回。

7. 主な結果

線形混合効果モデルを使用した包括解析分析において、SET グループ ($P=0.002$) と MBCR グループ ($P=0.011$) では、コントロール群では介入期間後、コルチゾール勾配の傾斜がより平坦になったのに対して、介入期間後も勾配が維持された。MBCR 介入グループは、SET 介入 ($P=0.009$) およびコントロール ($P=0.024$) グループと比べてストレス症状がより改善された。介入方法による違いについては、MBCR グループでは、コントロール群に比べて QOL において大きな改善($p=0.005$)が見られ、また、SET グループと比較すると社会的支援において大きな改善($p=0.012$)が見られた。

8. 結論

この最大規模の試験では、MBCR 介入は、苦痛を感じる乳がん生存者において、心理社会的アウトカムを改善する効果があることがわかった。SET と MBCR 両方は、コントロール群より正常な概日コルチゾール変化を生じることが示された。

9. 安全性に関する言及

なし

10. ドロップアウト率とドロップアウト群の特徴

MBCR グループ : 39名 SET グループ : 31名 コントロール群 : 17名 (各群で理由は不明)

11. ヨガの詳細

ヨガに関する記述なし

12. Abstractor のコメント

乳がん患者に対する精神的サポートに関して、マインドフルネスプログラムの効果が高いことがわかる。ヨガの効果が、どれほどを占めるかは不明である。

13. Abstractor の推奨度

乳がん生存者の心理的苦痛に対して MBCR は有効だが、SET とどちらが有効かはわからない。

14. Abstractor and Date

池田 聡子 岡 孝和 2014.12.14